

# 地域における 防災教育 の実践に関する手引き

平成27年3月

内閣府(防災担当)  
防災教育チャレンジプラン実行委員会

# 目次

## 第1章 はじめに

背景と目的	1
手引きの対象	1
手引きの使い方	2
手引きの作成にあたって参考とした取組事例	3

## 第2章 防災教育を実践するにあたって

防災教育とは	5
防災教育に関する国の動き	7
防災教育を実践する上での五箇条	8
防災教育の流れ(準備段階、実行段階、継続段階)	10

## 第3章 実践にあたってのポイント

### 〈準備段階〉

ポイント 1	<b>担い手</b>	担い手を決める	14
ポイント 2	<b>つなぎ手</b>	地域のキーパーソンと連携する	15
ポイント 3	<b>組織</b>	取組主体を組織化する	16
ポイント 4	<b>体制</b>	活動範囲を無理に広げない	18
ポイント 5	<b>時間</b>	準備時間を確保する	19

# 目次

ポイント 6	場所	活動場所を確保する	20
ポイント 7	資金	活動資金を確保する	21
ポイント 8	知識	知識や情報を収集する	22
ポイント 9	教材	目的に応じた教材(プログラム)を作成する	28

## 〈実行段階〉

ポイント10	つなぎ手	経験豊富なアドバイザーを確保する	36
ポイント11	体制	地域の理解を得て関係機関と連携する	37
ポイント12	時間	活動時間を確保する	40
ポイント13	経費	経費を低減させる	41
ポイント14	工夫	他の実践団体と交流する	42

## 〈継続段階〉

ポイント15	担い手	後任者を育成する	46		
ポイント16	教材	知恵や経験を形式知化する	48		
ポイント17	工夫	成果を外部に発表する	49		
ポイント18	体制	教材	資金	活動内容を継続的に見直す	50

参考資料	54
------	----





# 第1章

## はじめに



## 背景と目的

我が国では、毎年、地震や風水害など、多くの異常な自然現象が発生しており、これらの自然災害による被害を小さくするためには、「自助」、「共助」、「公助」\*の取組が重要です。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、大規模広域災害時における「公助」の限界が明らかになった一方で、「自助」、「共助」の重要性が再認識され、これをきっかけにして、「自助」、「共助」の力を向上させる取組として、防災教育への関心が高まっています。

しかし、何から始めればよいかわからない、活動を行うための資金や知識がないなどの様々な課題により、取組が進まない事例が存在します。

本手引きは、このような状況を踏まえ、全国各地で防災教育を推進することを目的として、優秀な先進事例から得られる取組を進めるための知見を整理し、防災教育を実践する過程で生じる様々な課題を解決するためのヒントを示すものです。

## 手引きの対象

本手引きは、教育・福祉関係団体（学校、幼稚園、保育施設など）に限らず、地域住民団体、ボランティア団体、地方公共団体などにおいて、これから防災教育に初めて取り組もうとする方を主な対象とします。

---

\* 「自助」とは、自らの命を自らが守ることを指し、普段から災害に備えて物資の備蓄や、自身で状況を判断し適切な避難行動を行うことなどが挙げられます。

「共助」とは、近隣が互いに助け合うことを指し、高齢者、障がい者、乳幼児などの要配慮者の避難誘導、生き埋めになった人の救出活動などが挙げられます。

「公助」とは、行政機関が実施する公的な支援を指し、災害発生に備えた啓発・準備・整備や、発災時に行う情報提供や避難所運営などの災害対応などが挙げられます。

# 手引きの使い方

本手引きは、

- ・ 防災教育の目的や基本的な流れを理解すること
  - ・ 防災教育を実践する過程で生じる課題の解決のためのヒントを得ること
- などに活用することができます。

1  
防災教育を実践する上で重要な18のポイントと、その解説を示しています。

4  
3つの取組段階別にポイントを整理しています。  
(1) 準備段階 (2) 実行段階 (3) 継続段階

2  
本手引きでは、各ポイントの具体的な解説として、20団体・44事例を紹介しています。

枠の右上に、事例団体の名称と所在地を示しています。

各事例における【課題】と【解決方法】を示し、参考図、写真などとともに掲載しています。

2

## 地域のキーパーソンと連携する

1 地域において中心的な役割を担う自治会役員や公民館主事などに相談し、逐次、報告交換などにより連携します。

**事例 2-①** 事例団体 釜石市立釜石東中学校 (岩手県釜石市)

**課題** 学校外に活動の範囲を広げるため、地域の協力を得る必要がありました。

**解決方法** PTA会長と地区長に相談し、協力を得られそうな人を紹介してもらいました。その際、メールや電話だけで済ませるのではなく、活動主体となる生徒とともに、直接会いに行って話をするように心がけました。

地域住民による「津波てんでんこ」\*1の語り継ぎ 地域住民に対する安否札の配布\*\*2

**事例 2-②** 事例団体 田辺市立新庄中学校 (和歌山県田辺市)

**課題** 地域と連携した活動にするため、学校と地域を結びパイプ役が必要でした。

**解決方法** 地域内の様々な行事活動で、キーパーソンとして参加していた公民館主事に相談し、学校と自治会などとの連絡や役割分担の調整に協力してもらいました。

\*1 津波てんでんこ：第1回「全国沿岸市町村津波サミット」(平成2年11月)において、津波災害史研究者である山下文男らによるパネルディスカッションから生まれた標語で、「津波が来たら、肉親に構わず、各自てんでんばらばらに一人で高台へ逃げる」という意味。  
\*2 安否札：災害時に避難したという札を玄関先に掲げることで、消防団や捜索隊員が家に入って確認しなくても状況がわかるという札。

13

5  
各ポイントを内容に応じて、次の6種類に分類しています。(詳細説明は、p11を参照)

人	担い手	つなぎ手
運営	組織	体制
場	時間	場所
お金	資金	経費
ネタ	知識	教材
コツ	工夫	

3  
その他補足情報として、脚注のほか、次の内容を記載しています。

- ・ 専門家のコラム
- ・ 事例団体からのメッセージ
- ・ 参考情報



## 手引きの作成にあたって参考とした取組事例

本手引きにおける取組事例は、防災教育の取組を支援する次の3つの事業から抽出しています。取組事例の抽出にあたっては、各事業における受賞の実績や、取組の継続状況などのほか、主体の別（学校や自治会、NPOなどの別）、地域のバランスなどを考慮しました。

### ■防災教育チャレンジプラン

(URL) <http://www.bosai-study.net/top.html>

(概要) 全国で取り組まれつつある防災教育の場の拡大や質の向上に役立つ共通の資産を作ることを目的に、新しいチャレンジをサポートする取組です。プランの準備・実践に必要な経費を支援するほか、防災教育チャレンジプランアドバイザーによる相談受付などの支援を行います。事例は、2004年～2013年の200件弱の取組から抽出しました。

### ■1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」

(URL) <http://npo-sakura.net/bousai-koushien/>

(概要) 阪神・淡路大震災の経験や、その後の様々な自然災害から得た教訓を生かし、自然の脅威と生命の尊さや、共生の大切さを考える「防災教育」を推進し、未来に向け安全で安心な社会をつくるため、児童・生徒などが学校や地域において主体的に取り組む「防災教育」にかかる先進的な活動を顕彰します。事例は、2004年～2013年に受賞した200件余りの取組から抽出しました。

### ■小学生のぼうさい探検隊マップコンクール

(URL) <http://www.sonpo.or.jp/>

(概要) 子どもたちが楽しみながら、まちにある防災・防犯・交通安全に関する施設や設備などを見て回り、身の回りの安全・安心を考えながらマップにまとめて発表する、実践的な安全教育プログラムです。事例は、2004年～2013年に受賞した130件余りの取組から抽出しました。

## 事例団体一覧

団体名 (活動報告書など URL)	所在地	
	都道府県	市町村
岩手県立宮古工業高等学校 ( <a href="https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk41/documents/kirokushi23_2.pdf">https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk41/documents/kirokushi23_2.pdf</a> )	岩手県	宮古市
釜石市立釜石東中学校 ( <a href="http://www.bosai-study.net/2010houkoku/plan.php?no=1">http://www.bosai-study.net/2010houkoku/plan.php?no=1</a> )	岩手県	釜石市
気仙沼市立階上(はしかみ)中学校 ( <a href="http://www.bosai-study.net/2013houkoku/plan.php?type=1&amp;no=9">http://www.bosai-study.net/2013houkoku/plan.php?type=1&amp;no=9</a> )	宮城県	気仙沼市
千葉県立東金(とうがね)特別支援学校 ( <a href="http://www.bosai-study.net/2012houkoku/plan.php?type=1&amp;no=4">http://www.bosai-study.net/2012houkoku/plan.php?type=1&amp;no=4</a> )	千葉県	東金市
くにたち地域外国人のための防災連絡会 ( <a href="http://www.bosai-study.net/2013houkoku/plan.php?type=1&amp;no=1">http://www.bosai-study.net/2013houkoku/plan.php?type=1&amp;no=1</a> )	東京都	国立市
なでしこ防災ネット ( <a href="http://www.bosai-study.net/2010houkoku/plan.php?no=9">http://www.bosai-study.net/2010houkoku/plan.php?no=9</a> )	神奈川県	秦野市
糸魚川市立根知(ねち)小学校 ( <a href="http://www.bosai-study.net/2011houkoku/plan.php?no=7">http://www.bosai-study.net/2011houkoku/plan.php?no=7</a> )	新潟県	糸魚川市
飯田市赤十字奉仕団 ( <a href="http://www.bosai-study.net/2013houkoku/plan.php?type=1&amp;no=4">http://www.bosai-study.net/2013houkoku/plan.php?type=1&amp;no=4</a> )	長野県	飯田市
名古屋大学災害対策室 歴史災害教訓伝達プロジェクト ～ 1944 東南海・1945 三河地震 ( <a href="http://www.bosai-study.net/2008houkoku/plan.php?no=5">http://www.bosai-study.net/2008houkoku/plan.php?no=5</a> )	愛知県	名古屋市
愛知県立半田(はんだ)商業高等学校 ( <a href="http://www.bosai-study.net/2011houkoku/plan.php?no=6">http://www.bosai-study.net/2011houkoku/plan.php?no=6</a> )	愛知県	半田市
鳥羽市安楽島(あらしま)子ども会 ( <a href="http://www.sonpo.or.jp/protection/bousai/pdf/archive/sakuhin_10.pdf">http://www.sonpo.or.jp/protection/bousai/pdf/archive/sakuhin_10.pdf</a> )	三重県	鳥羽市
滋賀県立彦根工業高等学校 ( <a href="http://www.bosai-study.net/2010houkoku/plan.php?no=8">http://www.bosai-study.net/2010houkoku/plan.php?no=8</a> )	滋賀県	彦根市
「やさしい日本語」有志の会 ( <a href="http://www.bosai-study.net/2011houkoku/plan.php?no=11">http://www.bosai-study.net/2011houkoku/plan.php?no=11</a> )	京都府	京都市
特定非営利活動法人 ひまわりの夢企画 ( <a href="http://www.bosai-study.net/2008houkoku/plan.php?no=6">http://www.bosai-study.net/2008houkoku/plan.php?no=6</a> )	兵庫県	神戸市
神戸学院大学 学際教育機構 防災・社会貢献ユニット ( <a href="http://www.bosai-study.net/2006houkoku/plan10/index.html">http://www.bosai-study.net/2006houkoku/plan10/index.html</a> )	兵庫県	神戸市
兵庫県立舞子高等学校環境防災科 ( <a href="http://www.bosai-study.net/houkoku/plan20/index.html">http://www.bosai-study.net/houkoku/plan20/index.html</a> )	兵庫県	神戸市
桜ヶ丘2丁目自治会(西大和6自治会連絡会) ( <a href="http://www.bosai-study.net/2010houkoku/plan.php?no=3">http://www.bosai-study.net/2010houkoku/plan.php?no=3</a> )	奈良県	北葛城郡 上牧町
田辺市立新庄中学校 ( <a href="http://www.bosai-study.net/houkoku/plan16/index.html">http://www.bosai-study.net/houkoku/plan16/index.html</a> )	和歌山県	田辺市
水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊 ( <a href="http://web.pref.hyogo.lg.jp/pa17/documents/000153803.pdf">http://web.pref.hyogo.lg.jp/pa17/documents/000153803.pdf</a> )	山口県	防府市
徳島市立津田中学校 ( <a href="http://web.pref.hyogo.lg.jp/kk41/documents/kirokushi23_1.pdf">http://web.pref.hyogo.lg.jp/kk41/documents/kirokushi23_1.pdf</a> )	徳島県	徳島市



## 第2章

# 防災教育を 実践するにあたって



## ▶ 防災教育とは

### ▶ 防災教育の目的

防災教育の目的は、地域に属するひとりひとりの防災意識の向上を図り、地域内の連携を促進することなどにより、地域の防災力(災害を未然に防止し、災害が発生した場合における被害の拡大を防ぎ及び災害の復旧を図る力)を強化することにあります。

そのためには、地域の災害履歴や防災に関する「知識」、皆で協力して災害に立ち向かおうとする「態度」、安全な避難や的確な救命救急などを実践できる「技能」を、普段からバランスよく育成していくことが重要です。

### ▶ 防災教育の意義

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、岩手県釜石市立釜石東中学校の例のように、それまで地域で取り組んでいた防災教育が実を結び、震災発生時に学校にいた多くの生徒・児童の命が津波から守られました。

### 釜石東中学校 (岩手県釜石市) における防災教育の効果

釜石東中学校は、海岸から500m程度しか離れておらず、以前より津波に対する危険性が認識されていました。

また、釜石東中学校のある鵜住居 (うのすまい) 地区では、過疎化の進展などにより高等学校が廃止され、中学生が地域の取組を率先して行う立場にありました。

このため釜石東中学校では、生徒に対し、地域社会の一員として防災の担い手になって欲しいという思いから、次の3点を狙いとして、防災教育に継続的に取り組んでいました。

1. 自分の命は自分で守る
2. 助けられる人から助ける人へ
3. 防災文化の継承

防災教育は、生徒自身が状況に応じて判断し、自ら率先して行動できる力の育成を目標として行われ、近隣の鵜住居小学校との合同訓練や、家庭や地域を巻き込んで行う全校防災学習「EASTレスキュー」など、地域と連携した活動も行われていました。

そして東日本大震災発生時、釜石東中学校と鵜住居小学校の生徒・児童約570名は、日頃の訓練のとおり、地震発生と同時に全員が迅速に高台方面に避難を開始するなど、周囲の状況を把握し、即座に対応することによって、押し寄せる津波から生き延びることができました。



中学生が小学生の手を引いて避難した



避難場所のそばまで津波が押し寄せた

## 防災教育に関する国の動き

東日本大震災を受けて地域の防災力の向上を目指し、関係府省庁において、次のような防災教育に関連する法律や指針などの整備、改定が行われています。

府省庁名	法律の改正など	時期	概要
内閣府	災害対策基本法の改正	平成24年6月27日 (法律第41号)	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民の責務として、防災教訓を伝承することを明記</li> <li>国、地方公共団体、民間事業者なども含めた各防災機関において、防災教育の実施に努めなければならないこと、実施にあたっては教育機関や公私の団体に協力を求めることができることを明記</li> </ul>
文部科学省	学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開	平成25年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災など近年の自然災害などにより、学校現場に提示された新たな課題を踏まえ、今後の学校における防災教育・防災管理などの在り方を示す参考資料として作成したもの（H10作成資料を改訂）。</li> <li>作成にあたっては、現行の学習指導要領における安全に関する記述を基に、「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議」の報告（H24.7）を踏まえ、「主体的に行動する態度」「安全で安心な社会づくりに貢献する意識」などを育成する視点を盛り込んだ。</li> <li>特に、「学校保健安全法」「学校安全の推進に関する計画（H24.4閣議決定）」を踏まえ、防災教育に関する指導時間を確保し、指導を充実するため、防災教育の系統的・体系的な指導内容を整理し、学校現場にわかりやすく示すものとした。</li> </ul>
総務省 消防庁	消防団を中核とした地域防災力強化に関する法律	平成25年12月13日 (法律第110号)	<ul style="list-style-type: none"> <li>国及び地方公共団体は、学校教育及び社会教育における防災に関する学習の振興のために必要な措置を講じることを明記</li> <li>自主防災組織、女性防火クラブ、少年消防クラブ、市町村の区域内の公共的団体、その他の防災に関する組織における教育訓練において、消防団が指導的な役割を担うことを明記</li> <li>市町村は、それに必要な措置を講ずるよう努力することを明記</li> </ul>

## 防災教育を実践する上での五箇条

防災教育を実践する上で念頭におくべき五箇条を示します。

### その 1

## 地域の特性や問題点、過去の被災経験を知ること

地域の脆弱性を把握し、想定される災害リスクを的確に捉えることが必要です。

### 事例団体からのメッセージ

防災といっても地域によって対象となる災害が違うので、まずは地域で起こりうる災害を把握し、地域住民の防災に対するニーズに応えることが大事です。

【愛知県立半田商業高等学校】

紙芝居の作成にあたっては、間違っことを伝えるわけにはまいりませんので、当時を知る人への聞き取りや、資料の確認を繰り返し行って、当時の状況を再現できるように努めました。

【飯田市赤十字奉仕団】

### その 2

## まずは行動し、身をもって体験すること

まずは自ら行動に移し、周囲に示すことが重要です。

### 事例団体からのメッセージ

最初から無理と思わず、行政や企業などへも声かけし、最初の一步を踏み出すことが大切です。実現できなくてもいいくらいの考えで、少しでも取り組んでいくことが大切です。

【滋賀県立彦根工業高等学校】

やってみて初めてわかることもあり、できなかつたらできなかつたなりに何が問題だったかを考えることが大事です。

【糸魚川市立根知小学校】



## その3

## 身の丈に合った取組とすること

理想や目標は掲げつつも、取組に必要なリソース(資源)を確認し、無理せず、欲張らず、自分達ができる範囲で取組を進めることが重要です。

## 事例団体からのメッセージ

どんな小さい活動でも継続することが大事で、思わぬところで花が咲くことがあります。

【やさしい日本語有志の会】

いいマップを作ろうとしてスタートしましたが、回数を重ねるうちに「地域を歩いて、地域を知ること」だけでも、防災教育の目的は達せられると気づきました。

【鳥羽市安楽島子ども会】

## その4

## 様々な立場の関係者と積極的に交流すること

周囲の関係者と協力・連携することにより新たな知見を取り入れ、取組体制を拡充させることが必要です。

## 事例団体からのメッセージ

メンバーそれぞれが資格を持ち、また色々な団体に所属しているため、そこでの人脈をもとに、専門家や他団体との新しいつながりを広げることができています。不足する力を補い合う「お互いさま関係」が、自分たちだけでは出来ないような活動も可能にするパワーになりました。

【なでしこ防災ネット】

まず大事なのは仲間づくりです。仲間が作れないと活動が広がらず、ネットワークも広がりません。

【やさしい日本語有志の会】

## その5

## 明るく、楽しく、気軽に実行すること

防災を楽しいことと結び付け、日常生活の中で気軽に継続できる取組を進めることが重要です。また、地震や風水害などの災害だけでなく、自然がもたらす恩恵の面もよく理解して、その地に暮らす誇りにつながるような取組が求められます。

## 事例団体からのメッセージ

日常の地域のイベント(祭りや、餅つきなどの楽しいイベント)に防災を織り交ぜることで、多くの人がお互いに顔を合わせ、楽しく防災に触れる機会を得られるようになり、自然と地域の防災力が向上していきます。

【桜ヶ丘2丁目自治会(西大和6自治会連絡会)】

## 防災教育の流れ (準備段階、実行段階、継続段階)

防災教育は、次の3つの段階で進めます。

### 準備段階

防災教育を始めるために必要な準備を行います

**誰が** 防災教育を主導する担い手を決定します。

**何のために** 防災教育の目的や目標を設定します。

**誰に対して** 防災教育の対象者を設定します。

**何を** 目的達成のため、具体的に行う活動を検討します。

**いつ**  
スケジュールを組み立てます。

**どこで**  
場所を選定します。

**どのように**  
方法、手段などを検討します。

目的に即した教材を用意し、必要な場の準備・設営、資金の確保などを行い、プログラムを組み立てます。

### 実行段階

実際に防災教育を始めます

準備段階で策定したプログラムに従い、具体的に防災教育を始めます。

### 継続段階

持続発展的に防災教育に取り組みます

取組を広く地域に発信し、活動の輪を広げます。

内容を改善しつつ、取組を継続します。

後任者を育成し、取組を引継ぎます。

また、防災教育を実践するにあたって、次に示す6つの要素に関する課題を解決する必要があると考えられます。

## 防災教育の取組を成功させる6つの要素

人	担い手 つなぎ手	取組を主導する担い手の確保や、 様々なタレントを持つ人と連携するための つなぎ手を確保できるか
運営	組織 体制	防災教育の取組体制、地域内・外の協力、 連携体制を構築できるか
場	時間 場所	防災教育に取り組むための時間や場所を 確保できるか
お金	資金 経費	防災教育に必要な資金の確保や 経費の低減ができるか
ネタ	知識 教材	防災教育を実践する上で必要となる 知識や教材等の入手と運用ができるか
コツ	工夫	防災教育の取組の質を高め、 より効果的・効率的なものにするための 意外なノウハウを知っているか





# 第3章

## 実践にあたっての ポイント



# 準備段階

## 準備段階における課題及び解決方法

防災教育を始めようとする最初の段階(準備段階)では、  
誰が、何のために、誰に対して、何を、いつ、どこで、  
どのように行うのかということを検討し、  
目的に即した教材、必要な時間や場所、資金の確保などを行って、  
プログラムを組み立てる必要があります。

# 1

## 担い手を決める

担い手

候補者の主体性・実効性などを考慮し、関係者間の合意を得た上で、防災教育を主導する担い手を決めます。

### 事例1-1

事例団体 | 安楽島子ども会 (三重県鳥羽市)

#### 課題

子ども会の活動の一環として防災教育に取り組んでいましたが、役員交代により防災教育に対する取組姿勢が変わるおそれがありました。継続的に防災教育に取り組むためには、役員交代の影響を受けない防災教育の担い手が必要でした。

#### 解決方法

もともと地域の世話役的な存在であった子ども会のOBが、空いた時間に可能な範囲で防災教育の担い手として活動しました。定期的に交代する子ども会役員とは別の体制としたことで、継続的な取組を進めることができました。



担い手の指導を受けながら、子どもたちがタウンウォッチングを行っている様子



地元のスーパーで担い手と一緒に災害時に必要なものを選んでいる様子



## 2

地域の  
キーパーソンと連携するつな  
ぎ手

地域において中心的な役割を担う自治会役員や公民館主事などに相談し、逐次、情報交換などにより連携します。

## 事例2-1

事例団体 | 釜石市立釜石東中学校(岩手県釜石市)

## 課題

学校外に活動の範囲を広げるため、地域の協力を得る必要がありました。

## 解決方法

PTA会長と地区長に相談し、協力を得られそうな人を紹介してもらいました。その際、メールや電話だけで済ませるのではなく、活動主体となる生徒とともに、直接会いに行って話をするように心がけました。



地域住民による「津波てんでんこ」\*1の語り継ぎ



地域住民に対する安否札\*2の配布

## 事例2-2

事例団体 | 田辺市立新庄中学校(和歌山県田辺市)

## 課題

地域と連携した活動にするため、学校と地域を結ぶパイプ役が必要でした。

## 解決方法

地域内の様々な行事活動で、キーパーソンとして参加していた公民館主事に相談し、学校と自治会などとの連絡や役割分担の調整に協力してもらいました。

\*1 津波てんでんこ：第1回「全国沿岸市町村津波サミット」(平成2年11月)において、津波災害史研究家である山下文男らによるパネルディスカッションから生まれた標語で、「津波が来たら、肉親に構わず、各自てんでんばらばらに一人で高台へ逃げろ」という意味。

\*2 安否札：災害時に避難したことを示す札。玄関先に掲げることで、消防団や捜索隊員が家に入って確認しなくても状況を知ることができる。

# 3

## 取組主体を組織化する

組織

関係者間の協議により、組織名称、責任者、役割分担、連絡体制などを決定し、活動計画を作成した上で、防災教育を組織的に行います。取組主体の組織化にあたっては、必要に応じて既存の組織の活用も検討します。

### 事例3-1

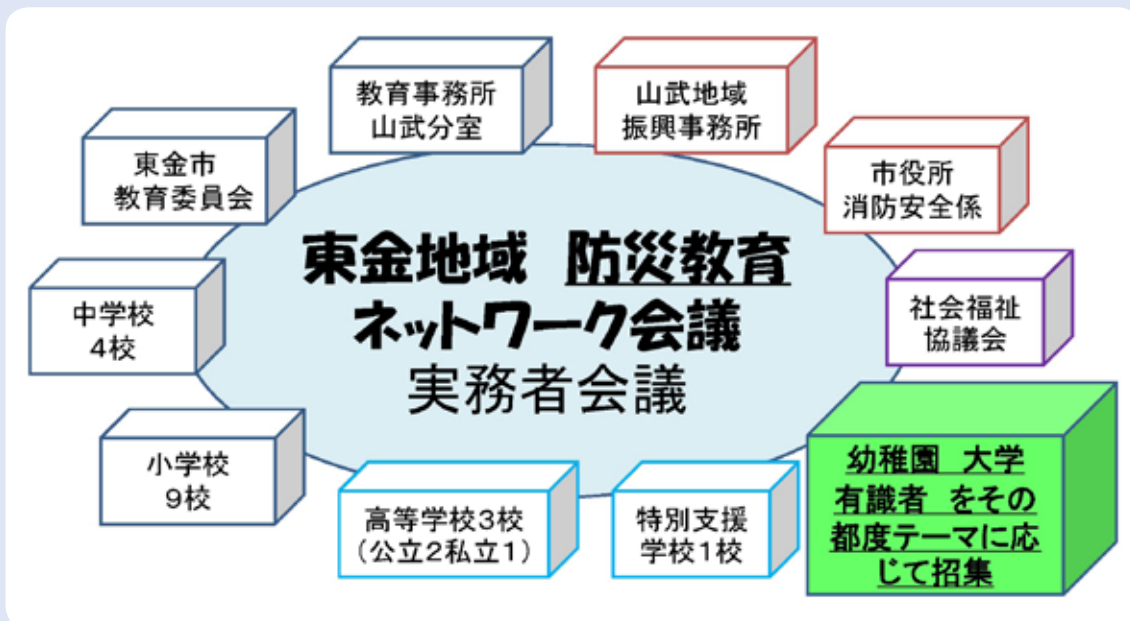
事例団体 | 千葉県立東金特別支援学校 (千葉県東金市)

#### 課題

地域全体として防災教育のレベルアップを図るため、地域の防災・福祉関係者間で情報を共有し、それぞれの役割を理解する必要がありました。

#### 解決方法

山武(さんぶ)地域内の防災・福祉・教育に関わる多様な関係団体からなる「山武防災ユニバーサルねっと」\*を構築し、各機関の防災担当者間で定期的に情報交換や意見交換を行いました。その上で、地域共通の考え方を整理し、一体的な防災教育の推進を図りました。



「山武防災ユニバーサルねっと」の構成要素の一つである「東金地域防災教育ネットワーク会議」では、防災担当者が集まり、情報交換をして、地域の防災教育のレベルアップを図っている

\* 「山武防災ユニバーサルねっと」は、①関係機関の防災担当者が集まり情報交換をして、地域の防災教育のレベルアップを図ること、②災害時要援護者(要支援者)支援のネットワークを構築すること、などを目的に設立され、山武地域振興事務所、山武地域の3市3町、学校(小・中学校、大学、特別支援学校)、幼稚園、自立支援協議会、社会福祉協議などが参加しています。また、東金特別支援学校は、山武防災ユニバーサルねっとの中核として、積極的に情報発信を行っています。

### 事例3-2

事例団体 | 桜ヶ丘2丁目自治会 (西大和6自治会連絡会) (奈良県上牧町)

#### 課題

自治会役員は毎年変わるため、防災教育の取組を維持する体制を設ける必要がありました。

#### 解決方法

自治会役員とは別に、自治会長を補佐する特別委員を設置し、防災教育活動の事務局機能を担いました。特別委員は単年で交代せず、もともと防災教育に対する意識が高い自治会の役員経験者が就任することから、防災教育の維持に役立っています。

平成26年度 桜ヶ丘2丁目自治会 防災年間活動計画

番号	実施内容	予定時期
1	災害時避難所開設訓練・子どもサバイバルキャンプ (今年度から小学校校区内自治会と共同開催)	8月
2	災害時要援護者実状調査(継続)	10月
3	災害時全員避難訓練・災害時要援護者避難訓練	11月
(以下、西大和6自治会連絡会と共同開催)		
4	救急救命講習	2月
5	防災センター見学	5月
6	自主防犯防災懇談会	5月
7	災害マニュアル勉強会	6月
8	初期消火訓練	11月

\*このほか随時情報を収集して、活動計画に取り入れています。

毎年活動計画を立て、年間を通じて防災教育に取り組んでいる

### 事例3-3

事例団体 | 田辺市立新庄中学校 (和歌山県田辺市)

#### 課題

学校全体として防災教育に取り組むため、各教員の活動目的や活動方針を作る必要がありました。

#### 解決方法

各学年から1名ずつ (合計3名) 防災教育の担当者を選出して、防災教育担当の部会を組織しました。部会会議を月1回程度開催し、担い手と各担当者が防災教育の方針などを確認することにより、全学年で統一的な防災教育を進めることができました。

防災教育  
担当部会



第1学年の  
担当者



第2学年の  
担当者



第3学年の  
担当者



担い手は、数年間継続的に全学年の防災教育担当者を総括

# 4

## 活動範囲を無理に広げない

体制

活動の範囲を最初から大きくせず、できる範囲から着手して、徐々に広げるプログラムとします。

### 事例4-1

事例団体 | 徳島市立津田中学校 (徳島県徳島市)

#### 課題

初めから全校生徒を対象にした活動にすると、課外活動など個々の生徒の事情に対する考慮や、長期休暇中の取組に対する保護者の了解を得るなどの調整に時間がかかり、スムーズな取組ができないことが予想されました。

#### 解決方法

まずは少人数 (学年1クラス程度の人数) による取組を始め、学習したことを発表会などで他の生徒に伝えるようにしました。

### 事例4-2

事例団体 | 安楽島子ども会 (三重県鳥羽市)

#### 課題

取組の担い手は仕事を持つ社会人であるため、負担のかからない方法で活動を継続することが求められました。

#### 解決方法

担い手は自分たちの空いた時間内で活動することを原則とし、行政機関や学校との連携などを無理に行いませんでした。また、成果の印刷・配布や、マップ記載内容の質の統一など、コストや労力が発生することは極力避け、取組を継続してきました。



子どもたちの自由な発想によるマップ (2006年度成果)

年度	安楽島ぼうさいマップのタイトル	年度	安楽島ぼうさいマップのタイトル
2005	地震と津波から命を守ろう!	2010	ビフォー～アフター
2006	防災無線が聞こえましたか? 調査	2011	通学路の点検
2007	津波警報が出たらどこへ逃げますか?	2012	おじいちゃん おばあちゃん 安心な場所まで何分かかるの
2008	私たちの町で火事が起きたら大丈夫?	2013	海の上、防災無線も命綱
2009	昭和34年伊勢湾台風と今年の18号台風		

毎年テーマを決めて活動している

## 5

## 準備時間を確保する

時間

担当者の空き時間を活用し、それぞれの得意分野を、無理のない範囲で分担できるように、調整します。

## 事例5-1

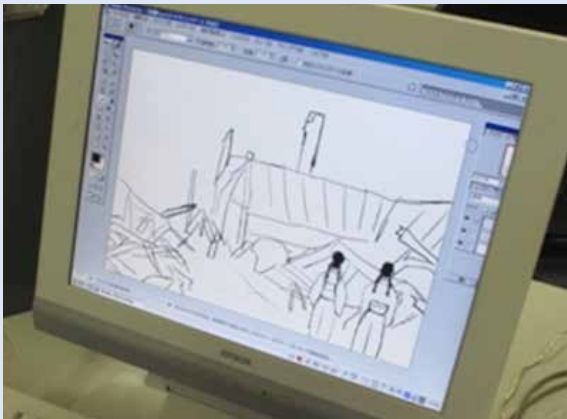
事例団体 | 愛知県立半田商業高等学校(愛知県半田市)

## 課題

教材となる紙芝居を制作するにあたって、生徒が作業できる時間が限られているため、効率的に作業をするための準備・段取りの工夫と、作業時間そのものの短縮が必要でした。

## 解決方法

CG美術部に下絵の制作を、演劇部にナレーションを担当させるなど、生徒の得意分野を活かす作業分担としました。また、最終的な編集は専門業者に依頼しました。その結果、制作時間を短縮することができました。



CG美術部は、CGで下絵を作成



下絵にアクリル絵の具を塗って、紙芝居のパネルを作成

# 6

## 活動場所を確保する

場所

活動内容に見合った活動場所を確保します。

### 事例6-1

事例団体 | くになち地域外国人のための防災連絡会 (東京都国立市)

#### 課題

国立市には、外国人を支援する複数のボランティア団体がありますが、各々の団体が別々に活動しており、また外国人の防災をテーマに活動を行う団体がなかったため、市内に多く在住する外国人同士がお互いを理解し、共通認識を持って防災教育に取り組む場がありませんでした。

#### 解決方法

市の防災計画で外国人の防災情報の拠点として公民館が位置づけられたことをきっかけに、公民館の協力のもと、2か月に1回の防災講座を開くこととしました。公民館は、これまで日本語講座などを通じて市内在住の外国人のコミュニティの場として利用されているため、地域で知り合いを作りにくい外国人にとってなじみの深い場所で、他の外国人などと顔を合わせながら一緒に防災教育に取り組めるようになりました。



公民館のホールで開かれている  
防災講座の様子

### 事例6-2

事例団体 | 安楽島子ども会 (三重県鳥羽市)

#### 課題

大判のマップを広げて作業するため、広い場所の確保が必要でした。

#### 解決方法

地域の中心部に立地する公民館の集会場を無償で借り、作業場所としました。



公民館の広々とした集会場が  
子どもたちの活動場所



集会場の広い机を使い、大きい図面を広げて、  
のびのびと活動している

## 7

## 活動資金を確保する

資金

- ① 助成金・補助金など\*の公的な制度を活用します。
- ② 資金の援助、資機材・物資の提供などをしてくれるスポンサーを確保します。
- ③ 防災教育推進モデル校などへ応募します。
- ④ 取組の事業化を検討します。

## 事例7-1

事例団体 | 愛知県立半田商業高等学校 (愛知県半田市)

## 課題

最低限の活動資金は学校の予算で対応できるが、満足な活動を行うためにはより多くの活動資金が必要でした。

## 解決方法

広報用チラシの作成などについては「防災教育チャレンジプラン」の活動支援金を活用しました。また、卒業生による同窓会を通じて、活動資金の寄付を募りました。

## 事例7-2

事例団体 | 田辺市立新庄中学校 (和歌山県田辺市)

## 課題

学校の中だけでなく、地域に展開した防災教育とするための資金調達が必要でした。

## 解決方法

最初は、主体者の自己負担で地域と連携した活動を行っていましたが、その後、活動に対する理解が得られた地域団体から、遠征費や材料費などの支援を得ることができました。

## 事例7-3

事例団体 | 飯田市赤十字奉仕団 (長野県飯田市)

## 課題

参加者の自己負担が増えつつあったため、活動資金の捻出が必要でした。

## 解決方法

防災教育の取組で作成した「防災に関する紙芝居」を絵本化し、学校の副読本として活用してもらえることとなり、県の補助を受けて絵本を出版しました。絵本は、学校のほか、地域からも一定の需要が見込めたため、無駄とされない部数を予め印刷し、頒布による収益の一部を活動費に充てることができました。

巻末の参考資料 ▶ 主な助成制度、顕彰制度など

- \* 文部科学省所管事業「実践的防災教育総合支援事業」などを基に、都道府県教育委員会が支援事業に取り組んでいます。都道府県により、名称が異なる場合があります。

- ①防災に関する知識を得るため、防災の専門家・研究者、NPOなどと連携します。
- ②教え方に関する知識を得るため、教育の専門家(学校教員、教育委員会、研究者など)と連携します。また、防災教育の方法に関する既存の手引きを活用します。
- ③地域の災害などに関する資料\*を参照します。また、地域に関する知識を得るため、地誌、歴史、風俗などの専門家・研究者、地域の古老、僧侶、災害経験者などと連携します。

## 事例8-1

事例団体 | 桜ヶ丘2丁目自治会(西大和6自治会連絡会)(奈良県上牧町)

## 課題

防災教育を始めるにあたって、防災に関する専門的な知識を得る必要がありました。

## 解決方法

関係者が防災関連の資格を取るなど、常日頃から自己研鑽を行い、知識を高めました。また、自治会活動において、地域内で専門的な知識を有する者(消防団員、消防署員、医師、看護師、防災士、建築士など)の発掘を行い、協力を得るため働きかけを行いました。

### 災害時支援者(助ける人)登録 をしていただけませんか

大地震・火災などの災害時、桜ヶ丘2丁目がピンチのときに、自分の専門知識、資格や、得意なことを活かして地域の人を助ける。そのような方を「災害時支援者」と呼ぶことにしました。桜ヶ丘2丁目自治会では、あなたの力を登録しておいて、緊急時に活かすため「災害時支援者」の登録をお願いいたします。

◎「災害時支援者」とは

- ◆緊急時のボランティアです。
- ◆ご登録者に義務を課すものではありません。
- ◆緊急時にはご家族の安全を確認後に、力をお貸しください。
- ◆災害時要援護者避難訓練、防災訓練、イベントにご協力ください。
- ◆年齢制限はありません。中・高生、大学生もお願いします。

☆専門知識・資格など

1. 医師 2. 看護師 3. 鍼灸師 4. マッサージ師 5. 消防士 6. 建築士
7. 電気工事士 8. ビル設備関連 9. 重機操作

☆趣味・芸能・その他

10. 日曜大工 11. パソコン 12. 子守 13. 高所作業 14. 料理(炊き出し)

災害時支援者(助ける人)の登録を呼びかけたチラシの文面(抜粋)

巻末の参考資料 ▶ 防災に関する知識が得られる主な関係機関

\* 自治体が作成する地域防災計画、ハザードマップや地史、地方整備局や気象台の資料などがあります。



## 事例8-2

事例団体 | 釜石市立釜石東中学校(岩手県釜石市)

## 課題

授業の中で防災教育を始める上で、何をどのように教えれば良いかわかりませんでした。

## 解決方法

「津波防災教育の手引き」\*を活用することで、いろいろな教科の中に、効率的に防災教育を取り入れることができました。また、「津波防災教育の手引き」の作成に協力したことで、手引きの作成に携わった防災教育の専門家からも、防災教育の進め方などについて様々な情報を入手することができました。

## 巻末の参考資料 ▶ 主な地方公共団体が発行する手引きの例

- \* 釜石市教育委員会、釜石市、群馬大学災害社会工学研究室が平成22年に作成した、防災教育の推進の取組の成果であり、平成23年3月に発生した東日本大震災の教訓を踏まえ、平成24年度に改訂が行われました。(釜石市教育委員会HP (<http://www.city.kamaishi.iwate.jp/index.cfm/10.0.109.445.html>))

## 事例 8-3

事例団体 | 飯田市赤十字奉仕団 (長野県飯田市)

### 課題

過去の災害の様子を詳細に把握するため、調査を行う必要がありました。

### 解決方法

実際に災害を経験した多くの地元住民に対してヒアリングを実施したほか、地区の図書館司書、博物館学芸員から、資料提供や関係資料の調査などの協力を受け、当時の様子を詳細に把握しました。最終的にこれらの情報をまとめ、災害当時の状況を表す紙芝居を制作しました。



作成した紙芝居の例

## 事例 8-4

事例団体 | 岩手県立宮古工業高等学校 (岩手県宮古市)

### 課題

疑似津波実験のリアリティを高めるため、過去の地震、津波被害に関する情報収集が必要でした。

### 解決方法

津波体験者で有名な語り部を訪れ、「昭和8年の三陸大津波」についてヒアリングを行い、当時の状況について詳細を知ることができました。また、地元写真家や海上保安署などから過去の津波被害の写真などの提供を受け、疑似津波実験と併せて開催する過去の津波被害の展示に活用しました。

**参考8-1****文部科学省 新学習指導要領・生きる力 について**

文部科学省の学習指導要領は、次代を担う子どもたちが、これからの社会において必要となる「生きる力」を身に付けることを目的に改訂がなされ、平成21年度から順次新しい学習指導要領が実施されています。

例えば防災に関連するものとしては、小6理科で「地震」と「火山」が必修化され、学校教育において災害が取り上げられやすい状況となっています。

(ウ)「生命・地球」については、児童が生物の生活や成長、体のつくり及び地表、大気圏、天体に関する諸現象について観察やモデルなどを通して探究したり、自然災害などの視点と関連付けて探究したりすることについての指導に重点を置いて内容を構成する。また、現行で課題選択となっている、卵の中の成長と母体内の成長、地震と火山はいずれも指導する。

(出典：新学習指導要領・生きる力 小学校学習指導要領解説(理科))

## 参考8-2

### 学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開 について

東日本大震災をはじめとする近年の自然災害などにより、学校現場に提示された新たな課題を踏まえ、今後の学校における防災教育・防災管理などの在り方を示す参考資料として、平成10年度に作成された“学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開”が改定されました。

## 主なポイント

### 第1章 学校防災の意義とねらい

東日本大震災の教訓を踏まえつつ、防災教育・防災管理・防災に関する組織活動を通じて、学校における災害安全を推進すべきという基本的考え方を明記。

### 第2章 学校における防災教育

幼稚園から高等学校に至る幼児・児童・生徒の発達の段階を踏まえた防災教育の目標を示すとともに、教科などにまたがる防災教育の内容を体系的に行うための指導上の留意点を提示。

### 第3章 学校における防災管理

学校における防災管理に関し、①災害発生に備えた安全管理(事前の危機管理)、②災害発生時の対応(発生時の危機管理)、③災害発生後の対応(事後の危機管理)の各段階ごとの対応の留意点を明記。

### 第4章 防災教育・防災管理に関する組織活動例

防災教育・防災管理を効果的に推進するため、①校内推進体制の整備、②組織的な教職員研修の充実、③家庭・地域社会との連携など、組織活動の重要性や留意点について記述。

### 第5章 学校における防災教育の展開例

各学校における系統的・体系的な防災教育の実施を促すため、学校段階ごとの防災教育年間指導計画例や具体的な授業展開例を例示。

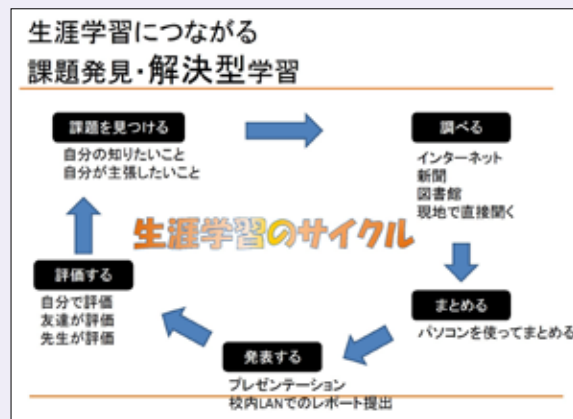
- ・幼稚園(日常生活における指導, 引き渡し訓練など)
- ・小学校(地域社会における災害の学習, 緊急地震速報を利用した訓練など)
- ・中学校(自然の恵みと災害の学習, 竜巻への対応など)
- ・高等学校(安全に配慮した住生活, 地域と連携した避難訓練など)
- ・特別支援学校(障害のある児童生徒などの災害時に予想される困難と支援例など)

## 専門家のコラム

### 防災教育の専門課程における特徴的な取組例

兵庫県立舞子高等学校（以下「舞子高校」という。）は、国内で唯一、防災教育の専門課程を有する高等学校として知られています。舞子高校では、専門科目で多様な防災教育が展開できるメリットを活かして、以下のような特徴的な防災教育を実施しています。

- 1) 自然環境と社会環境という両方の視点から防災を考える。
- 2) 課題発見・解決型学習を重視する。  
 （「将来の夢と防災のかかわり」、「防災都市計画」、「他人の体験を語りつぐ」、「防災教育の教材作り」など）



課題発見・解決型学習のイメージ

- 3) 校外活動や国際交流に重点をおいた学習を行う。  
 （「国際交流（途上国の防災）」、「災害ボランティア活動」、「被災地の学校との交流や継続的支援」、「中高生を対象とした防災ワークショップ」、「特別支援学校との防災交流」など）



ネパールの子どもたちとの防災交流



東日本大震災の被災地でのボランティア活動



子ども防災キャンプで災害を教える

また、舞子高校では、地域と学校の実情、学習者の発達段階に合わせて防災教育の内容を工夫しており、HP\*において活動事例を数多く公表しています。

\* 舞子高校HP 防災教育アイデア集のページ  
[http://www.hyogo-c.ed.jp/~maiko-hs/bosai\\_edu/idea/idea\\_top.htm](http://www.hyogo-c.ed.jp/~maiko-hs/bosai_edu/idea/idea_top.htm)

# 9

## 目的に応じた教材 (プログラム)を作成する

教材

- ①防災教育に携わっている機関のHPや、防災関係のイベントなどから教材を入手したり、それらの公開情報をヒントにして、活動の目的に応じた教材の開発・改良を行います。
- ②防災教育の目的に応じたシナリオを検討し、適切な教材、場所、時間、スタッフ、経費などを割り振ったプログラムを作成します。
- ③活動に「遊び」の要素を加えて楽しい内容とする、人々が気軽に参加できるような内容とする、地域に密着した内容とする、参加者に達成感やメリットを与え、やる気を出す工夫をするなど、変化に富んだプログラムを作成します。

### 事例9-1

事例団体 | 安楽島子ども会 (三重県鳥羽市)

#### 課題

「防災教育活動にはお金がかかる」という思い込みがありました。

#### 解決方法

基本的な道具一式は「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール事務局」から、ベースとなる地形図は市から無償で提供を受け、過去の災害履歴などは地域で入手できる範囲で活用したため、ほとんど予算を必要としませんでした。

「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール事務局」より無償で提供される教材  
(出典)「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」パンフレット

まちなか探検やマップ作成の際に必要な文房具等をまとめた「実施キット」をご提供しています。



備品名	数量	使用目的
探検隊	1隊	マップ作成用
マシックス(5色入り)	1箱	マップ作成用
マーカー(5色)	1セット	マップ作成用
ポス্টカード(大)(小)	各1冊	ポイントに貼付けて印刷機
紙ボード(ほぼA4サイズ)	10冊	チェックポイントなどの書き込み
紙ボード用クリップ	10個	まちなか探検の印刷時の下敷き用
ぼうさい	1本	紙ボードに地図シートをとめる
スタックのり	1本	地図・写真等の貼り付け
セロテープ	1巻	地図・写真等の貼り付け

【申込例】  
①60人の児童で実施し、応募マップ数が5枚の場合 → 6セット程度。  
②30人の児童が参加し、応募マップ数が5枚の場合 → 5セット程度。

### 事例9-2

事例団体 | 滋賀県立彦根工業高等学校 (滋賀県彦根市)

#### 課題

工業高校の授業の一環として防災教育を行うにあたり、「形に残るものづくり」をテーマに活動内容を検討する必要性がありました。

#### 解決方法

防災に関する展示会に出展されていた防災資機材の事例を参考に、自らが実践できる取組を検討することができました。



平常時は  
ベンチとして利用



災害時には、  
かまどとして利用

## 事例9-3

事例団体 | 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット (兵庫県神戸市)

## 課題

防災教育を広く行うため、総合的な学習の時間だけでなく、一般の授業にも無理なく取り込める教材が必要でした。

## 解決方法

小学校5年生を対象に、全普通教科(8教科)について防災の要素を取り入れた教材を作成しました。各教材は、小学校5年生の学習指導要領<sup>\*1</sup>の目的・勉強内容に沿った形で作成し、1時限の授業に対応できるボリュームとしました。また、教材ごとに指導書を作成することで、防災教育を全く知らない先生にも気軽に使ってもらえる教材となりました。

本教材は、HP<sup>\*2</sup>で公開されているほか、大学に所属する学生が教材を用いて出前授業を行っています。



教材を使って出前授業を実施した

<b>ねらい</b>
ドラえものの町中にどんな施設、防災設備があるか見てもらう。 その上で自分の町にどんな防災設備があるか。児童に気付いてもらう。
<b>目標</b>
① 地図記号の意味、使い方を覚える ② 災害時の避難の方法や、町の防災について知る。
<b>手順</b>
1. ワークシートを配布する。地図についての注意点を説明する。
<b>【注意点】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>.. ドラえものの町である。</li> <li>.. 秘密道具は使えない。(ドラえもんは未来に出張中。スベアポケットも修理中)</li> <li>.. 指定した設問だけを答えていく。(順番通りにしてもいいが、第6問は全ての設問の説明を終えてからする)</li> </ul>

教材とともに作成した、教え方を記した指導書  
(社会の教材に関する指導書の抜粋)

## 巻末の参考資料 ▶ 一工夫を加えた防災教育コンテンツの例

\*1 教材作成当時(平成18年)の学習指導要領を参考としています。

\*2 神戸学院大学防災・社会貢献ユニットHP 活動内容のページ

(URL: <http://www.kobegakuin.ac.jp/~gakusai/bosai/html/katudo.html>)

課題

1年間にわたって防災教育を行う体系的なプログラムがありませんでした。

解決方法

地域の歴史災害を掘り起こし、まとめ、教材にして次世代に伝えていく過程について、①問題を見つける、②追究する、③表現する、④自己を考えるという4つのステップからなるプログラムとしました。

このプログラムは、地震だけではなく、あらゆる災害を対象とすることができるため、汎用性が高いものとなりました。



プログラムの概要と、  
本事例で実施した内容

ステップ	実施した内容
①問題を見つける	被災体験を聞き、地震の怖さなどを把握する。
②追究する	周辺にある危険性を把握し、命を守るためにどのような行動すべきか調べ、皆で話し合う。
③表現する	学んだこと（三河地震の教訓）を、学芸会で家族や地域に広げる。
④自己を考える	いざというときの行動目標を設定する。



## 事例9-5

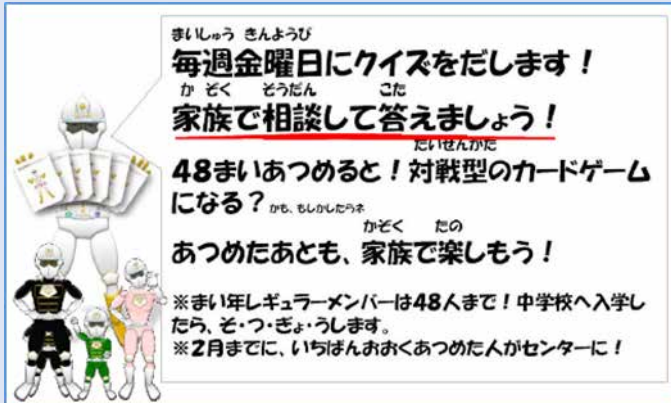
事例団体 | 糸魚川市立根知小学校(新潟県糸魚川市)

## 課題

学校外において児童の安全を確保するためには、学校内における防災教育だけではなく、各家庭の防災の意識を高めることが重要でした。

## 解決方法

防災に関する難しい課題(防災ミッション)を児童に課し、家庭に持ち帰って保護者に相談しても良いという指導を行うことで、保護者も一緒になって防災について考えるようになり、家庭における防災の意識づけが進みました。



出された課題をもとに、保護者も一緒になって防災について考える

## 事例9-6

事例団体 | 愛知県立半田商業高等学校(愛知県半田市)

## 課題

防災教育の成果をより向上させるためには、生徒が受け身にならず、主体的に活動できる仕組みが必要でした。

## 解決方法

生徒自らが授業を行う出前授業では、生徒は「教えられる側」から「教える側」へと意識を切り替える必要があり、主体性を身につけることができました。また、毎回「教員役」と「生徒役」を担当する班を作り、ローテーションで分担することにより、両方の視点からのふり返りが可能となりました。



多くの中学生を前に、緊張した面持ちで  
出前授業に臨んだ



小学生は元気に参加し、  
教える側にも自然と余裕が生まれた

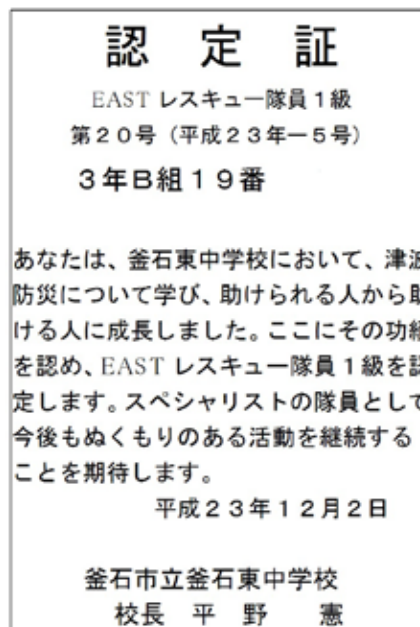
## 課題

生徒が自ら受けた防災教育の成果を定量的に確認し、目標をもって取り組むための工夫が必要でした。

## 解決方法

防災教育の一環として実践する生徒のボランティア活動 (EASTレスキュー) \*では、ポイント制の導入や、達成レベルに応じた級の設定を行うことにより、生徒の防災教育に対する関心と意欲の向上を図ることができました。

EASTレスキュー隊員の認定証



- \* 釜石東中学校で行われているボランティア活動を含む全校防災学習は、東中生 (East) -手助け (Assist) -学習 (Study) -津波 (Tsunami) の頭文字をとって“EASTレスキュー”と称されています。生徒のボランティア活動の状況に応じて、ポイントが付与され、年間の獲得ポイントにより、EASTレスキュー隊員1級～5級の設定があります。年間5ポイントで2級が、年間10ポイントで1級が認定され、全校朝会で表彰されます。

## 専門家のコラム

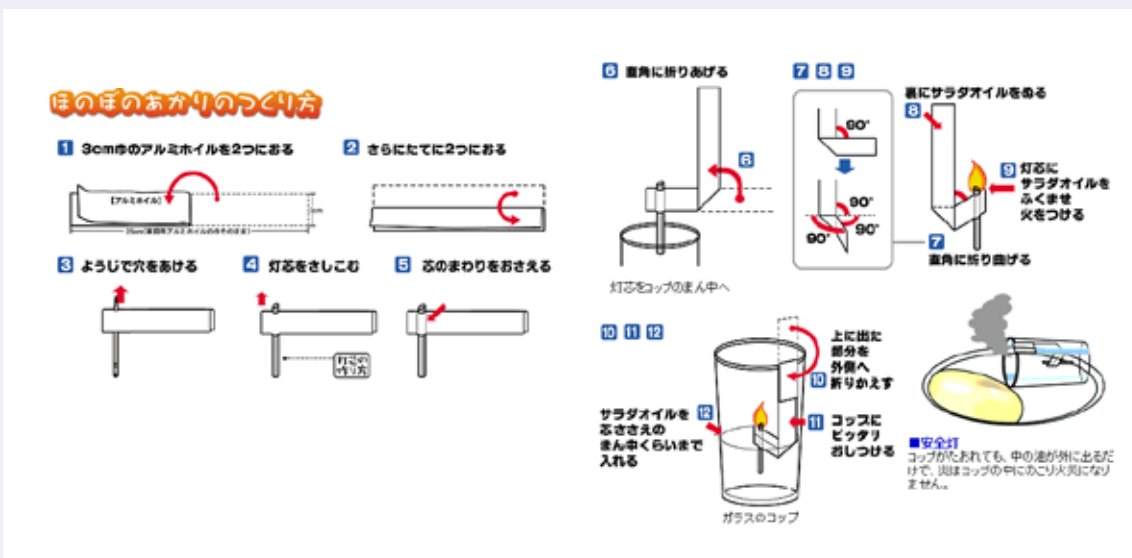
防災教育のプログラムは、目的により大きく3つに分類されると考えられ、準備段階から、いずれを目指して実践するかを検討しておくことも大切です。

### 防災教育のプログラムの分類

総合学習型	学校の授業、行事を核にして行う、防災知識や意識を高めるための取組
地域イベント型	地域イベントとして、学校、地域、家庭などが一体となって行う取組
一点もの	工夫された特定の教材を中心に行う取組



一点ものの例 命の一本桜プロジェクト「気仙沼市立面瀬小学校全校生徒396名にて」(アトリエ太陽の子)



一点ものの例 ほのぼののあかりのつくり方 (公益財団法人 市民防災研究所)



# 実行段階

## 実行段階における課題及び解決方法

防災教育の実行段階では、多くの人を巻き込みながら、準備段階で計画したプログラムを実行していく必要があります。

# 10

## 経験豊富なアドバイザーを確保する

つなぎ手

公共やNPOが主催するアドバイザー制度などを活用し、活動の中で生じた課題を解決するための助言を得ます。

### 事例10-1

事例団体 | 糸魚川市立根知小学校(新潟県糸魚川市)

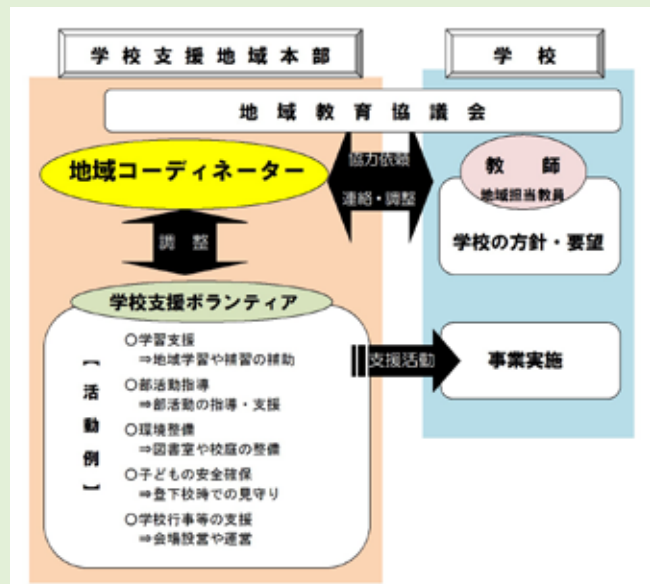
#### 課題

防災教育を支援してもらおうボランティア団体などを確保する方法がわからなかったため、アドバイスを必要としていました。

#### 解決方法

「学校支援地域本部事業」\*の地域コーディネーターから、学校支援ボランティアの活用に関するアドバイスを受けました。学校のニーズを把握している元教員などが地域コーディネーターとして、学校支援ボランティアとの間を取り持ってくれるため、的確な協力を得ることができました。

糸魚川市学校支援地域本部事業のイメージ  
出典：糸魚川市HP  
(<http://www.city.itoigawa.lg.jp/dd.aspx?menuid=5714>)



#### 巻末の参考資料 ▶ アドバイザー制度などに関する相談窓口の例

- \* 学校、家庭・地域住民などの相互の連携協力の重要性が認識される中、学校の求めに応じて地域のボランティアが必要な支援を行う体制を構築することを目的として、平成20年度より実施されている文部科学省所管の事業です。

## 11

地域の理解を得て  
関係機関と連携する

体制

- ①活動に対する地域の理解度を高め、地域の関係機関と連携しやすい環境を構築します。
- ②自治会、自主防災組織、消防団、学校、公民館、子ども会、老人会などと連携し、フェイスツーフェイスのコミュニケーションが可能なコンパクトな地域内で人脈を形成します。

## 事例 11-1

事例団体 | 徳島市立津田中学校 (徳島県徳島市)

## 課題

学校を中心に地域一体となって効果的な防災教育を実践するため、防災教育に対する地域住民などの理解、賛同を得る必要がありました。

## 解決方法

町内会や大学、市と一緒に作成した津波避難支援マップが、地域内に設置されました。防災教育の取組が具体的な形となって地域に還元されることにより、防災教育に対する地域の理解度は高まりました。

まちの中心部の道路交差点に設置された津波避難支援マップ



## 事例 11-2

事例団体 | 気仙沼市立階上中学校 (宮城県気仙沼市)

## 課題

地域防災力を高めるため、自分達の取組を通じて明らかになった災害時の課題を、防災教育を通じて地域に理解してもらう必要がありました。

## 解決方法

地域住民も防災学習発表会に参加してもらうことで、災害時にお互いどのように行動すべきかを理解することができました。

学校主催の地域住民防災学習発表会には、地域住民も多数参加



## 事例11-3

事例団体 | 田辺市立新庄中学校(和歌山県田辺市)

### 課題

地域防災力の向上のためには、中学校単独による取組だけではなく、地域全体として防災教育を行うことが必要でした。

### 解決方法

公民館を橋渡し役として小学校や幼稚園との連携を、また、コミュニティ運営会議に参加することで地域との連携を図りました。また、文部科学省補助事業「新庄地域共育コミュニティ事業」\*の取組を通して、防災面における地域との連携を図りました。



小学校を訪問し、防災紙芝居を上演



敬老会で、安否札の説明を実施

- \* 文部科学省ならびに和歌山県、田辺市の補助事業として、平成23年～25年の3年間実施された「学校支援地域本部事業」の取組。学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子どもの健全育成と地域づくりを推進することを目的に実施されました。



事例11-4

事例団体 | 「やさしい日本語」有志の会 (京都府京都市)

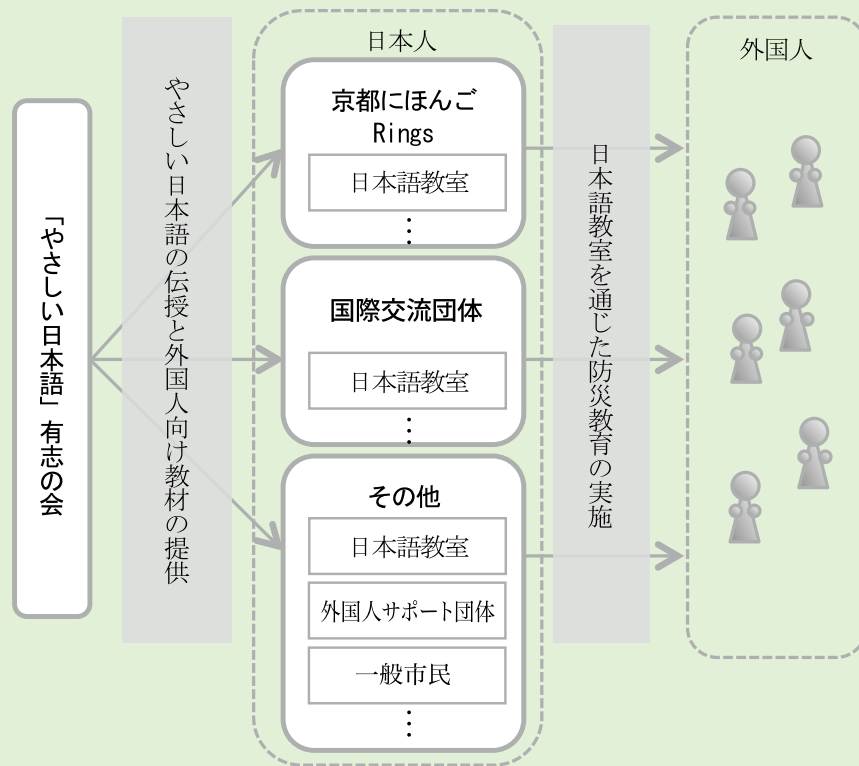
課題

外国人に対し、効果的な防災教育を行うためには、日ごろから外国人とコミュニケーションを行い、彼らの事情を十分把握した上で、彼らにとってわかりやすい方法で防災教育を進める必要がありました。

解決方法

日常的に外国人と対話し、外国人のことをよく知る様々な地域の日本語教室や、“京都にほんごRings (リングス)” \* に所属する日本語教室に働きかけ、彼らの授業を通じて外国人に対する防災教育を行う体制を構築しました。

また、防災グッズを単純な絵とやさしい日本語で表現した“防災グッズカード”を作成し、授業で用いてもらうことにより、外国人にとってわかりやすい防災教育となるような工夫をしました。



日本語教室を通じた外国人などに対する防災教育の実施体制

\* 京都にほんごRings (リングス)  
京都府内で活動する日本語教室のボランティア・ネットワーク

# 12

## 活動時間を確保する

時間

総合的な学習の時間、関連教科の授業時間、平日夜間、休日など、工夫して活動時間を確保します。

### 事例12-1

事例団体 | 気仙沼市立階上中学校(宮城県気仙沼市)

#### 課題

年間を通じて組まれている授業の中から、防災教育に充てる時間を捻出する必要がありました。

#### 解決方法

年間70時間の総合的な学習の時間のうち、35時間を防災教育に充てました。しかし、それだけでは必ずしも十分ではなかったため、理科や国語など担当している他の教科の授業の中でも防災に触れることを意識しました。

### 事例12-2

事例団体 | 飯田市赤十字奉仕団(長野県飯田市)

#### 課題

総合的な学習の時間などが限られている中で、短時間かつ効果的に防災教育を行う工夫が必要でした。

#### 解決方法

紙芝居の実演は、20分間程度で実施できることから、朝の全校集会の時間を活用し、短時間かつ効果的な防災教育を実現しました。



全校集会における紙芝居の上演状況



短時間でも強く印象に残る、肉声による紙芝居上演

## 13

## 経費を低減させる

経費

既存の取組を発展させる、既存の教材を活用する、公共施設などの無料の場所を利用する、無償のボランティアに協力を要請するなどの工夫により、直接的な経費の支出を減らします。

## 事例13-1

事例団体 | 水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊 (山口県防府市)

## 課題

活動資金が少なかったため、費用を節約して防災教育を行う方法を考える必要がありました。

## 解決方法

主体者から様々な関係団体に対して調整を図ることにより、無償で機材、場所などの提供を受けることができました。例えば、降雨実験機を用いたイベントでは、出前講座の制度を活用して、国土交通省から降雨体験機の出展、気象台から職員の派遣を受けました。

また、イベント開催時、市の施設を利用し、後援を得たことでイベントに必要な水道代なども補助を受け、費用を大幅に低減できました。



防災イベントで、降雨体験機により豪雨を体験している様子

## 事例13-2

事例団体 | NPO法人ひまわりの夢企画 (兵庫県神戸市)

## 課題

出前講座を実施するにあたり、交通費などの実費の確保が必要となりました。

## 解決方法

最低限の経費として、依頼者側に交通費と出前に必要な迷路資材の運搬費を負担してもらいました。依頼者側が交通費などを負担することが難しい場合は、代わりに当日のスタッフを手配してもらうなど、臨機応変に対応しました。

- ①他の実践団体と共同で取組を行うことで、ネットワークが広がり、相乗効果が見込まれます。
- ②日頃から、実践団体との交流を深め、相互に協力、支援しあえる関係を構築することにより、体制が強化されます。

## 事例14-1

事例団体 | 田辺市立新庄中学校(和歌山県田辺市)

## 課題

同じ目的を持った他校との交流を行い、効果的な防災教育の取組にしたいと考えました。

## 解決方法

「中学生・高校生による全国防災会議」\*1、「田辺市津波防災シンポジウム」\*2、「シンサイミライ学校交流会」\*3など、全国で防災教育に取り組む学校が一堂に会する機会に参加し、他校との情報交換を行うことにより、効果的な防災教育の取組のための知見を広めることができました。



田辺市津波防災シンポジウムの様子



中学生・高校生による全国防災会議の様子

- \*1 世界各国がこれまで培ってきた防災のノウハウを共有し、「次代の防災を担う人材」の育成、防災意識と社会参加意識のさらなる向上を目的に、平成26年1月に東京で開催されました。
- \*2 2013年11月 田辺市の防災教育をより充実・発展していくため、各学校、地域の取組を発表・交流し、防災教育の向上に生かしていく機会とすることを目的に、田辺市と田辺市教育委員会共催で開催されました。
- \*3 宮城県石巻西高等学校が主催する合宿形式で行われる全国の中学生、高校生による防災学習の交流会で、平成26年度は8月10日から3日間開催されました。

## 事例 14-2

事例団体 | なでしこ防災ネット(神奈川県秦野市)

## 課題

防災教育を主催する組織のスタッフが少人数のため、イベントなどの際には、活動に必要なスタッフを確保する必要がありました。

## 解決方法

日頃から各地のボランティア団体などと協力しながら活動しており、イベントなどの際にはお互いにスタッフを派遣しあう仕組みを導入することで、必要な人員を確保しました。また、学校の生徒に協力してもらった場合は、必ず学校に成果報告を行うことで、学校の理解が得られ、次回の協力も得やすくなりました。



「災害時井戸協力の家」看板作成・設置では、市内の中学生がボランティアとして参加

## 事例 14-3

事例団体 | 水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊(山口県防府市)

## 課題

防災教育を主催する組織のスタッフが少人数のため、イベントなどの際には、活動に必要なスタッフを確保する必要がありました。

## 解決方法

地域内での小規模なイベントの際には、そのイベントに参加する児童・生徒の保護者などにボランティアの募集をかけ、児童・生徒の付添いスタッフを確保しました。他組織や他地域を巻き込んで行う大規模なイベントの際には、普段から交流のある組織と連携することで大勢のスタッフを確保しました。



川遊びの活動は、保護者やボランティアと連携



# 継続段階

## 継続段階における課題及び解決方法

防災教育の継続段階では、取組結果を広く公表し、評価を受け、内容を改善しながら継続していく必要があります。

# 15

## 後任者を育成する

担い手

- ① 予め後任者を指名し、計画的なOJT\*などにより、担い手としての役割を引き継ぎ、継承します。
- ② できるところから取組を引き継ぎ、後任者を育てます。
- ③ 類似の取組を進めている組織、関係分野の大学・研究機関、NPO、専門家・研究者、経験者との交流の中で、後任者を探し、取組を引き継ぎます。

### 事例15-1

事例団体 | 徳島市立津田中学校 (徳島県徳島市)

#### 課題

担い手のみに依存した活動では、担い手の異動などで、活動が滞るおそれがありました。

#### 解決方法

担い手は、防災講座の開催や地域住民との交流などの防災教育活動に、自身以外の担当者をサブとして帯同させ、役割を与えた上で、指導を行いました。現在、防災教育を開始した当時の担い手は別の学校へ異動しましたが、後任者となるサブの担当者が、その役割を引き継ぎ、防災教育の取組を継続しています。

### 事例15-2

事例団体 | 飯田市赤十字奉仕団 (長野県飯田市)

#### 課題

防災教育の取組において、紙芝居を作成するには、構成、脚本、作画など、様々な技術が必要なため、簡単には後任者が育成できませんでした。

#### 解決方法

紙芝居の上演は比較的誰でも取り掛かりやすい内容であるため、紙芝居の作成と上演を切り離し、市内の中学校(人形劇クラブ)との共演や、赤十字の各分団に対する上演指導などにより、まずは紙芝居の上演を行う者の育成に着手し、取組を広げることとしました。



紙芝居の作成風景



日赤長野県支部における、紙芝居上演の指導風景

\* OJT (On the Job Training)

職場の上司などが部下などに対し、具体的な職務遂行を通じて、仕事に必要な知識や技能、取り組み姿勢などを、意図的、計画的、継続的に指導し、育成する活動のこと。



## 事例15-3

事例団体 | NPO法人ひまわりの夢企画 (兵庫県神戸市)

## 課題

一人で全国の出前講座を行うには限界があるため、防災教育の取組を普及させる協力者が必要となりました。

## 解決方法

防災教育を目的に開発した教材である「防災楽習迷路」\*1を、防災研修施設として全国的に有名な「人と防災未来センター」\*2などの展示施設にリースを行い、各組織において教材を紹介することにより、取組の普及を図りました。



人と防災未来センターガイダンスルームにおける教材の展示



兵庫県内の防災イベントでも展示が行われている

- \*1 「防災楽習迷路」は、10m四方の木製の迷路を使って、震災で家が倒壊し、迷路のようになってしまったという想定のもと、隠された絵カードを探すゲームや、迷路を小さな町に見立てて防災マップを作ったりするゲームを通じて、楽しみながら防災教育を行う教材として開発されたものである。
- \*2 阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、その教訓を未来に生かすことを通じて、災害文化の形成、地域防災力の向上、防災政策の開発支援を図り、安全・安心な市民協働・減災社会の実現に貢献することを目的に設立された。(URL: <http://www.dri.ne.jp/wordpress/index.php>)

# 16

## 知恵や経験を 形式知化する

教材

取組を行う中で蓄積された知識や情報、経験から得られた知恵などを継承するために、活動の手順やポイントをマニュアル・手引きとしてまとめます。

### 事例 16-1

事例団体 | 滋賀県立彦根工業高等学校 (滋賀県彦根市)

#### 課題

防災教育の取組を広く普及させるため、目的や手順、ポイントなどを整理した資料が必要でした。

#### 解決方法

防災教育チャレンジプランの助成を受け、「活動の手引き」と「かまどベンチの製作編マニュアル」を作成して、文書の形でノウハウの共有や活動の引き継ぎが行えるようになりました。(ただし、マニュアルを渡すだけでなく、防災教育の「肝」となる部分は、直接伝える必要があります。)



#### 手引きの主な内容

- I. はじめに・・・かまどベンチの説明、かまどベンチづくりの意義や可能性などについて
- II. 活動内容・・・かまどベンチづくりの手順について
- III. その他活動・・・かまどベンチづくりを中心とした事前学習や交流の方法、後継者の育成方法などについて
- IV. 活動の知見と発展への提案・・・防災減災活動普及のための提案について
- V. 参考・・・交流団体や協力者などについて
- VI. 終わりに

「かまどベンチづくり活動の手引き」では、かまどベンチの作り方のほか、作ったかまどベンチを用いた地域との交流など活用方法についても提案

### 事例 16-2

事例団体 | NPO法人ひまわりの夢企画 (兵庫県神戸市)

#### 課題

本組織の取組が各地に広がり始めたことで、取組を当初の目的や思想を保持したまま正しく伝えるために、標準スタイルを保証する方策が必要となりました。

#### 解決方法

開発した防災教育の教材について、教材の目的や意図、あるいは使用方法などが誤って広がらないように、特許を取得して、利用方法に一定の基準を設けました。

## 17

## 成果を外部に発表する

工夫

取組や成果を地域に還元するなどして、効果を増幅させます。

## 事例17-1

事例団体 | 岩手県立宮古工業高等学校 (岩手県宮古市)

## 課題

工業高校の持つ資機材や専門技術を活用することで、リアリティのある模型が完成したので、それを教材として、地域全体に津波災害に対する啓蒙活動を広げたいと考えました。

## 解決方法

毎年、作成した模型の対象地区内にある学校に対して、疑似津波実験の実演会の案内を出し、出前実験を行いました。また、防災関連のイベントなどからの実演要請にも応じたほか、「1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」」や「中学生・高校生による全国防災会議」などでの発表、マスメディアの取材などにより、他地域への出前実験も実施しました。

疑似津波実験は、精巧な立体模型をベースに津波の動き方や到達範囲が実感できる内容であり、目の前で水を流して実験するため、小さな子どもからお年寄りまでわかりやすく、説得力のあるものとなりました。



防災イベントにおける疑似津波実験の様子

疑似津波実演会 開催回数  
(平成17年～平成25年度)

実施場所	回
小学校	29
中学校	6
高等学校	6
大学など	4
イベント発表会他	52
合計	97

疑似津波実験の実演は、  
のべ100回近くに及ぶ

# 18

## 活動内容を 継続的に見直す

体制

教材

資金

自己評価や外部評価に基づき、プログラムなどの見直しを行います。

### 事例 18-1

事例団体 | 気仙沼市立階上中学校 (宮城県気仙沼市)

#### 課題

防災教育をより良いものに変え、継続させるために、成果に対する外部の評価を受けるとともに、他の組織の取組などから、新たな知見を得る必要がありました。

#### 解決方法

市からの助言を受けて、「防災教育チャレンジプラン」や「1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」」などに応募し、外の目からの客観的な評価をもらいました。同時に、他の学校などの取組から新たなアイデアを得ることができました。



防災教育チャレンジプランの表彰式の様子



1・17防災未来賞「ぼうさい甲子園」の表彰式の様子

## 参考18-1

## 防災教育における活動内容の見直しについて

業務管理で広く用いられているPDCAサイクル\*を活用し、活動内容の評価（Check）と見直し（Action）を継続的に行うことにより、効果的・効率的な活動の継続が期待されます。

<見直しの例>

○プログラムについて

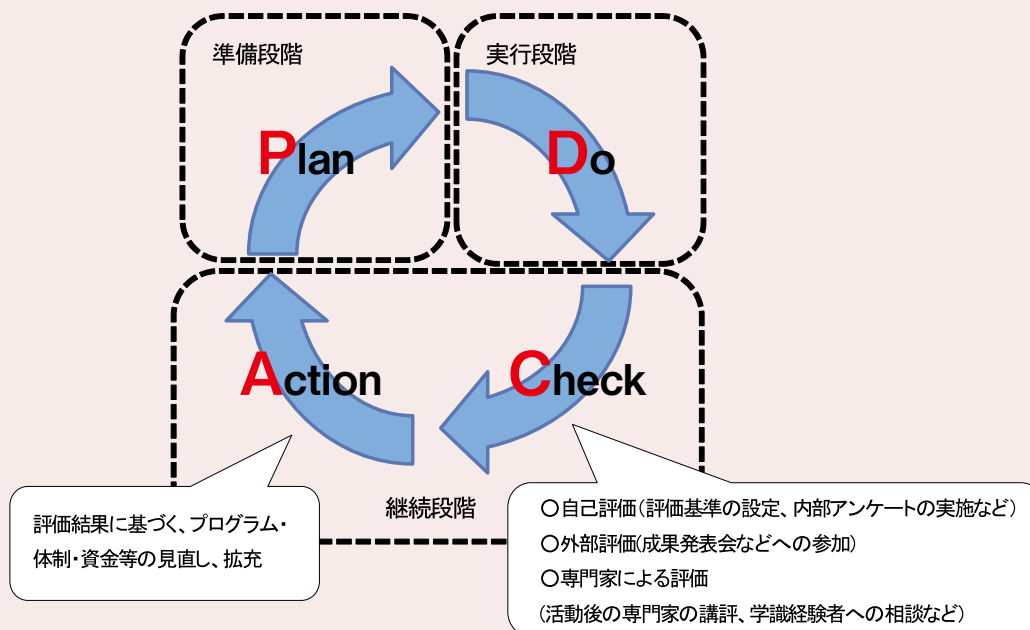
- ・対象者を増やそう
  - ・他のメニューを取り入れよう
- など

○体制について

- ・他の団体との連携、協働を検討しよう
- など

○資金について

- ・活動資金を増やすため、経常的に収入が得られる方法を検討しよう
- など



PDCA サイクルによる継続的な見直し

\* PDCAサイクル

Plan (計画) → Do (実行) → Check (評価) → Action (改善) の4段階を繰り返し、継続的に業務改善を行うもので、防災教育を継続する上でも有効な概念です。





# 參考資料

## 参考-1：防災に関する知識が得られる主な関係機関

種別	名称（五十音順）	URL
府省庁	国土交通省 気象庁	<a href="http://www.jma.go.jp/jma/index.html">http://www.jma.go.jp/jma/index.html</a>
	国土交通省 防災情報提供センター	<a href="http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/">http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/</a>
	総務省 消防庁 (e-カレッジ)	<a href="http://open.fdma.go.jp/e-college/">http://open.fdma.go.jp/e-college/</a>
	内閣府 (防災情報のページ)	<a href="http://www.bousai.go.jp/">http://www.bousai.go.jp/</a>
	文部科学省 (防災教育支援推進ポータル)	<a href="http://www.jishin.go.jp/main/bosai/kyoiku-shien/bosai.html">http://www.jishin.go.jp/main/bosai/kyoiku-shien/bosai.html</a>
防災学習 施設・防災 体験館など	おらたる (新潟県長岡市)	<a href="http://c-marugoto.jp/yamakoshi/">http://c-marugoto.jp/yamakoshi/</a>
	川口きずな館 (新潟県長岡市)	<a href="http://c-marugoto.jp/kawaguchi/">http://c-marugoto.jp/kawaguchi/</a>
	きおくみらい (新潟県長岡市)	<a href="http://c-marugoto.jp/nagaoka/">http://c-marugoto.jp/nagaoka/</a>
	そなエリア東京 (東京都江東区)	<a href="http://www.ktr.mlit.go.jp/showa/tokyorinkai/">http://www.ktr.mlit.go.jp/showa/tokyorinkai/</a>
	そなえ館 (新潟県小千谷市)	<a href="http://c-marugoto.jp/ojiya/">http://c-marugoto.jp/ojiya/</a>
	東京消防庁 池袋防災館 (東京都豊島区)	<a href="http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-ikbskan">http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-ikbskan</a>
	東京消防庁 消防博物館 (東京都新宿区)	<a href="http://www.tfd.metro.tokyo.jp/ts/museum.html">http://www.tfd.metro.tokyo.jp/ts/museum.html</a>
	東京消防庁 立川防災館 (東京都立川市)	<a href="http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-ttbskan">http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-ttbskan</a>
	東京消防庁 本所防災館 (東京都墨田区)	<a href="http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-hjbskan">http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-hjbskan</a>
人と防災未来センター (兵庫県神戸市)	<a href="http://www.dri.ne.jp/wordpress/index.php">http://www.dri.ne.jp/wordpress/index.php</a>	
NPO、民間 団体など	NHK そなえる防災	<a href="http://www.nhk.or.jp/sonae/">http://www.nhk.or.jp/sonae/</a>
	株式会社パスコ 災害撮影成果	<a href="http://www.pasco.co.jp/disaster_info/">http://www.pasco.co.jp/disaster_info/</a>
	公益財団法人市民防災研究所	<a href="http://www.sbk.or.jp/">http://www.sbk.or.jp/</a>
	災害救援ボランティア推進委員会	<a href="http://www.saigai.or.jp/">http://www.saigai.or.jp/</a>
	特定非営利活動法人レスキューストックヤード	<a href="http://www.rsy-nagoya.com/">http://www.rsy-nagoya.com/</a>
学会など	地域安全学会	<a href="http://www.iss.info/index.html">http://www.iss.info/index.html</a>
	土木学会	<a href="http://www.jsce.or.jp/index.html">http://www.jsce.or.jp/index.html</a>
	日本火山学会	<a href="http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/J/index.html">http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/J/index.html</a>
	日本気象学会	<a href="http://www.metsoc.or.jp/">http://www.metsoc.or.jp/</a>
	日本建築学会	<a href="http://www.aij.or.jp/">http://www.aij.or.jp/</a>
	日本災害情報学会	<a href="http://www.jasdis.gr.jp/index.html">http://www.jasdis.gr.jp/index.html</a>
	日本地震学会	<a href="http://www.zisin.jp/">http://www.zisin.jp/</a>
研究所など	京都大学防災研究所	<a href="http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/web_j/index_topics.html">http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/web_j/index_topics.html</a>
	建築研究所	<a href="http://www.kenken.go.jp/index.html">http://www.kenken.go.jp/index.html</a>
	神戸学院大学 (防災・社会貢献ユニット)	<a href="http://www.kobegakuin.ac.jp/gakusai/bousai.html">http://www.kobegakuin.ac.jp/gakusai/bousai.html</a>
	港湾空港技術研究所	<a href="http://www.pari.go.jp/index.html">http://www.pari.go.jp/index.html</a>
	国土交通省国土技術政策総合研究所	<a href="http://www.nilim.go.jp/index.html">http://www.nilim.go.jp/index.html</a>
	静岡大学 (防災総合センター)	<a href="http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/sbosai/menu01.html">http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/sbosai/menu01.html</a>
	東京大学地震研究所	<a href="http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/Jhome.html">http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/Jhome.html</a>
	東京大学生産技術研究所	<a href="http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/index.html">http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/index.html</a>
	土木研究所	<a href="http://www.pwri.go.jp/index.html">http://www.pwri.go.jp/index.html</a>
	名古屋大学 (災害対策室)	<a href="http://www.seis.nagoya-u.ac.jp/taisaku/">http://www.seis.nagoya-u.ac.jp/taisaku/</a>
	兵庫県立大学 (防災教育センター)	<a href="http://ecdr-u-hyogo-ac.jp/">http://ecdr-u-hyogo-ac.jp/</a>
	防災科学技術研究所	<a href="http://www.bosai.go.jp/index.html">http://www.bosai.go.jp/index.html</a>
	三重大学 (美し国おこし・三重さきもり塾)	<a href="http://www.sakimori.eng.mie-u.ac.jp/">http://www.sakimori.eng.mie-u.ac.jp/</a>
	和歌山大学 (防災研究教育センター)	<a href="http://www.wakayama-u.ac.jp/bousai/">http://www.wakayama-u.ac.jp/bousai/</a>

(出典：内閣府防災情報のページ (国民運動を進めるのに参考になる情報リンク集) など)

\* このほか、地方公共団体の防災関係部局などでも、防災に関する専門知識が得られます。



## 参考-2: 主な地方公共団体が発行する手引きの例

資料名	発行機関名	URL
防災教育の推進について (全国都道府県教育長協議会第1部会資料)	全国都道府県教育委員会 会連合会	<a href="http://www.kyoi-ren.gr.jp/report/H24bukai/h24itibukai.pdf">http://www.kyoi-ren.gr.jp/report/H24bukai/h24itibukai.pdf</a>
防災教育実践事例集	北海道教育委員会	<a href="http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssa/bosai_jirei.htm">http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssa/bosai_jirei.htm</a>
釜石市津波防災教育のための手引き	釜石市教育委員会	<a href="http://www.city.kamaishi.iwate.jp/index.cfm/10,0,109,445,html">http://www.city.kamaishi.iwate.jp/index.cfm/10,0,109,445,html</a>
みやぎ学校安全基本指針、 学校防災マニュアル作成ガイド	宮城県教育委員会	<a href="http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/supoken/anzen.html">http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/supoken/anzen.html</a>
学校における防災教育事例集、「学校における地震 防災マニュアル」及び学校における防災指導資料	千葉県教育委員会	<a href="http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/anzen/saigai-anzen/index.html">http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/anzen/saigai-anzen/index.html</a>
奈良県学校地震防災教育推進プラン	奈良県教育委員会	<a href="http://www.pref.nara.jp/kyoiku/">http://www.pref.nara.jp/kyoiku/</a>
防災教育指導の手引、 減災教育副読本	和歌山県教育委員会	<a href="http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500100/koumoku2/sub10_1.html">http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500100/koumoku2/sub10_1.html</a>
学校防災管理マニュアル、 防災教育資料	兵庫県教育委員会	<a href="http://www.hyogo-c.ed.jp/~board-bo/gakkou.html">http://www.hyogo-c.ed.jp/~board-bo/gakkou.html</a>
学校災害対応マニュアル作成指針	姫路市教育委員会	<a href="http://www.city.himeji.lg.jp/s110/2212774/_28949.html">http://www.city.himeji.lg.jp/s110/2212774/_28949.html</a>
学校防災管理マニュアル、 防災教育資料	徳島県教育委員会	<a href="https://www3.tokushima-ec.ed.jp/bousai/">https://www3.tokushima-ec.ed.jp/bousai/</a>

## 参考-3: アドバイザー制度などに関する相談窓口の例

種別	名称 (五十音順)	問合せ先など
国、地方公共団体	学校支援地域本部事業	文部科学省所管事業 窓口は、地方公共団体 (教育委員会など)
	実践的防災教育総合支援事業 (学校防災アドバイザー)	
公的支援事業	防災教育チャレンジプラン実行委員会	<a href="http://www.bosai-study.net/top.html">http://www.bosai-study.net/top.html</a>
NPO、 民間団体など	災害救援ボランティア推進委員会	<a href="http://www.saigai.or.jp">http://www.saigai.or.jp</a>
	特定非営利活動法人さくらネット	<a href="http://npo-sakura.net/">http://npo-sakura.net/</a>
	特定非営利活動法人レスキューストックヤード	<a href="http://www.rsy-nagoya.com/">http://www.rsy-nagoya.com/</a>
	防災ネットワークプラン	<a href="http://homepage3.nifty.com/BOUSAI_NWP/index.html">http://homepage3.nifty.com/BOUSAI_NWP/index.html</a>

## 参考-4: 一工夫を加えた防災教育コンテンツの例

種別	名称 (五十音順)		問合せ先など
ゲーム	クロスロード	チームクロスロード	<a href="http://maechan.net/crossroad/toukou.html">http://maechan.net/crossroad/toukou.html</a>
	災害情報 & コミュニケーション演習 (DICE- ダイス-)	災害救援ボランティア推進委員会	<a href="http://www.saigai.or.jp/info/2014/0815104354.html">http://www.saigai.or.jp/info/2014/0815104354.html</a>
	なまずの学校	NPO 法人プラス・アーツ	<a href="http://www.plus-arts.net/">http://www.plus-arts.net/</a>
	ぼうさいダック	一般社団法人日本損害保険協会	<a href="http://www.sonpo.or.jp/archive/publish/education/0008.html">http://www.sonpo.or.jp/archive/publish/education/0008.html</a>
防災学習用アプリ	帰宅支援マップサービス	株式会社パスコ	<a href="https://www2.kitakumap.com/">https://www2.kitakumap.com/</a>
	そなえもん	岐阜県	<a href="http://www.pref.gifu.lg.jp/kensei-unei/kocho-koho/event-calendar/sonota/joho-sangyo/sonaemon.html">http://www.pref.gifu.lg.jp/kensei-unei/kocho-koho/event-calendar/sonota/joho-sangyo/sonaemon.html</a>
	津波 AR アプリ	宮城教育大学・東北大学	<a href="http://www.miyakyo-u.ac.jp/news/general/-ar.html">http://www.miyakyo-u.ac.jp/news/general/-ar.html</a>
	天サイ! まなぶくん	東京大学・株式会社キャドセンター	<a href="http://www.cadcenter.co.jp/camp/ARscope.html">http://www.cadcenter.co.jp/camp/ARscope.html</a>
その他教材	100ドル耐震補強	東京大学生産技術研究所 目黒研究室	<a href="http://risk-mg.iis.u-tokyo.ac.jp/top/top.html">http://risk-mg.iis.u-tokyo.ac.jp/top/top.html</a>
	安否札	-	
	うさぎ一家のぼうさいグッズえらび	災害救援ボランティア推進委員会	<a href="http://www.saigai.or.jp/info/2014/0529161411.html">http://www.saigai.or.jp/info/2014/0529161411.html</a>
	家具固定	東京消防庁など	<a href="http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-bousaika/kaguten/handbook/">http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-bousaika/kaguten/handbook/</a>
	劇・寸劇	-	
	災害用トイレガイド	NPO 法人日本トイレ研究所	<a href="http://www.toilet.or.jp/toilet-guide/index.html">http://www.toilet.or.jp/toilet-guide/index.html</a>
	ぶるる	名古屋大学福和研究室	<a href="http://www.sharaku.nuac.nagoya-u.ac.jp/laboFT/bururu/index.htm">http://www.sharaku.nuac.nagoya-u.ac.jp/laboFT/bururu/index.htm</a>
	防災紙芝居	総務省消防庁など	<a href="http://www.fdma.go.jp/syobodan/bousai/">http://www.fdma.go.jp/syobodan/bousai/</a>
	防災カルタ	消防防災博物館など	<a href="http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index5.cgi?ac1=P205&amp;Page=hpd5_tmp">http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index5.cgi?ac1=P205&amp;Page=hpd5_tmp</a>
	防災教育実践 50 選	EDUPEDIA	<a href="https://edupedia.jp/articles/keyword/53233f7d059b682d585b4cd0">https://edupedia.jp/articles/keyword/53233f7d059b682d585b4cd0</a>
	防災教育用リーフレット	NPO 法人さくらネット	<a href="http://www.npo-sakura.net/disaster.php">http://www.npo-sakura.net/disaster.php</a>
	防災ずきん	-	
	目黒巻き	東京大学生産技術研究所 目黒研究室	<a href="http://risk-mg.iis.u-tokyo.ac.jp/meguromaki/meguro_maki.pdf">http://risk-mg.iis.u-tokyo.ac.jp/meguromaki/meguro_maki.pdf</a>
	わらべ唄・音楽	-	

## 参考-5：防災訓練の例

名称（五十音順）	概要	問合せ先など	
イザ！カエルキャラバン！	おもちゃの物々交換プログラム「かえっこバザール」のシステムをベースに、そのなかで展開される「体験コーナー」をゲーム感覚あふれる「消火」、「救出」、「救護」などの防災訓練にすることで、参加者たちは楽しみながら防災の“知恵”や“技”を学べるようになっています。	NPO 法人プラス・アーツ	<a href="http://www.plus-arts.net/?p=15458">http://www.plus-arts.net/?p=15458</a>
シェイクアウト訓練	地震の揺れから身を守る安全行動（まず低く、頭を守り、動かない）を共通訓練として、決められた日時に、そのときいる場所でいっせいに実施します。	日本シェイクアウト提唱会議	<a href="http://www.shakeout.jp/">http://www.shakeout.jp/</a>
着衣泳	水難事故から身を守ることを目的に、着衣状態で水に浮いたり、浮きながら移動する訓練を行います。	水難学会	<a href="http://wr.umin.jp/">http://wr.umin.jp/</a>
DIG（災害図上訓練）	参加者が地図を使って防災対策を検討する訓練です。	常葉大学社会環境学部	<a href="http://www.tokoha-u.ac.jp/department/social/index.html">http://www.tokoha-u.ac.jp/department/social/index.html</a>
HUG（避難所運営訓練）	避難所の運営をしなければならない立場になったときを想定し、避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。	静岡県	<a href="http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/seibu/hug/index.html">http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/seibu/hug/index.html</a>
防災運動会	バケツリレーや担架運びなど、防災の要素を取り入れた運動会です。	—	
防災キャンプ	水道や電気、ガスなどのライフラインがストップした避難所生活を想定し、野外生活などを体験する訓練です。	文部科学省	<a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/taiken.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/taiken.htm</a>

## 参考-6：主な助成制度、顕彰制度など

種別	事業名、事業主体など（五十音順）	問合せ先など
国、地方 公共団体	自主防災組織活動補助金 など	窓口は、地方公共団体防災部局 など
	実践的防災教育総合支援事業 （防災教育推進モデル校など）	文部科学省所管事業 窓口は、地方公共団体（教育委員会）
	東京防災隣組	<a href="http://www.bousai.metro.tokyo.jp/tonarigumi/">http://www.bousai.metro.tokyo.jp/tonarigumi/</a>
	防災教育推進協議会	窓口は、地方公共団体（教育委員会）
	ひょうご安全の日推進県民会議事務局	<a href="http://www.19950117hyogo.jp/index.htm">http://www.19950117hyogo.jp/index.htm</a>
	防災まちづくり大賞（総務省消防庁）	<a href="http://www.fdma.go.jp/">http://www.fdma.go.jp/</a>
公的支援 事業など	小学生のぼうさい探検隊マップコンクール	<a href="http://www.sonpo.or.jp/">http://www.sonpo.or.jp/</a>
	防災教育チャレンジプラン	<a href="http://www.bosai-study.net/top.html">http://www.bosai-study.net/top.html</a>
	「ぼうさい甲子園」1.17 防災未来賞	<a href="http://npo-sakura.net/bousai-koushien/">http://npo-sakura.net/bousai-koushien/</a>
企業、 財団、 NPO など	木口福祉財団	<a href="http://kiguchi.or.jp/">http://kiguchi.or.jp/</a>
	JR 西日本安心社会財団	<a href="http://www.jrw-relief-f.or.jp/index.html">http://www.jrw-relief-f.or.jp/index.html</a>
	大和証券福祉財団	<a href="http://www.daiwa-grp.jp/dsf/index.html">http://www.daiwa-grp.jp/dsf/index.html</a>
	トヨタ財団	<a href="http://www.toyotafound.or.jp/">http://www.toyotafound.or.jp/</a>
	日本財団	<a href="http://www.nippon-foundation.or.jp/">http://www.nippon-foundation.or.jp/</a>
	日本宝くじ協会	<a href="http://jla-takarakuji.or.jp/">http://jla-takarakuji.or.jp/</a>
	日本郵便 年賀寄附金による社会貢献事業助成	<a href="https://www.post.japanpost.jp/kifu/index.html">https://www.post.japanpost.jp/kifu/index.html</a>
	防災士育成事業補助金 など（日本防災士会）	<a href="http://www.bousaisikai.jp/">http://www.bousaisikai.jp/</a>

# 地域における防災教育の実践に関する手引き

平成 27 年 3 月

発行 内閣府（防災担当）  
防災教育チャレンジプラン実行委員会

住所 〒 100-8914 東京都千代田区永田町 1-6-1  
中央合同庁舎第 8 号館

TEL 03 (5253) 2111

<http://www.bousai.go.jp/index.html>

